

ヒューマンウェアインターンシップ報告書

3 / 4

インターンシップ体験記 (海外インターンシップの場合は英語で記入)

2021年8月から10月まで NEC のデータサイズ研究所に私がインターンシップ研修を体験した。近年のインターンシップが昔と比べて一番特殊なのはコロナの影響で活動がいろいろ制限されること。今後はこのようなものになるかはわからないので、まだ行動の制限がそこまで厳しくないうちに早めにインターンシップをやりたい気分でインターンシップを申し込んだ。この前提で海外に行くことはほぼ無理から、国内短期のインターンシップに決めた。コロナの影響で会社の本地に行くことはできず、家にリモートワークをするという前と比べて特殊な形でインターンシップをやった。このリモートインターンシップも多分今年からの新しいインターンシップ形式であって、このインターンシップの経験を記録することで、来者に役に立つと思う。この体験記は(1)インターンシップ探し、(2)インターンシップの申し込み、(2)インターンシップの仕事体験と(4)インターンシップの締め作業の順番で書く。

インターンシップを探すには、やはり大量の応募情報を参考する上に、運の要素も大きいと感じた。前に HW が情報科学研究科が主催したインターンシップの紹介などイベントにも積極的に参加したが、先輩たちは自分の専門研究と完全に一致するインターンシップはとっても探しいにくいという感想を聞いた。第一、企業にとっては純粋の学術の研究をすることはほぼないので、研究室の環境と完全に違うから、研究室に行く研究は企業にでもやれることはそもそもすくない。第二、専門研究と合うインタンジブルが見つけたとしても、自分のスケジュールと合うとも限らない。専門研究の方向と合うインタンジブルを探すに、より多い応募情報を見ることで何とか見つけるでしょうけど、それは自分のスケジュールと合えるのかは運に任せるしかない。この観点から見れば、早めにインタンジブルを探して、自分のスケジュールをインターンシップの時間を合えるように整理することがいいでしょう。

私の場合は最初からドクターに行くことに決めたから、応用に向けるインターンシップより、研究をメインにするインターンシップを目標にした。最初から目標は就職ではないので、日立のようなアプリケーションを中心にする職位には自分と似合わない判断した。アプリケーションの開発はもちろん意味があるもので、たくさん勉強できると思うが、ドクターの研究にもっと参考にできる仕事ができる方がいいと思った。探したいのは研究職ですから、NTT か NEC のような研究所が提供してくれたインターンシップ。幸運のは今年の NEC のデータサイズ研究所に並列処理と深層学習関連のインターンシップを見つけた。私のコンピュータサイエンス専門の並列処理工学講座所属していて、深層学習の高速化を中心に研究している。これに対して、NEC が深層学習の並列化を課題にしている。この方向性としては自分の研究方向は完全に一致しているので、迷わずにこのインタンジブルを申し込んだ。

申し込んだ手続きと後の面接全部もオンラインでやった。今 DX が随分発展されているから、多分コロナがなくても申し込みの手続きもインターネットでやれるでしょう。申し込みに一般的な履歴やほかの身分証明書など書類を提出したら、審査の結果を待つ。NEC データサイズ研究所の本地は神奈川にあるので、大阪から行くにはかなり手間がかかる。コロナの影響であるかどうかはわからないが、面接もオンラインで決められた。面接に自分がやっている研究を紹介され、仕事に何か期待があるか、質問があるかと聞かれて、多分一般的だと思う。でもここに一つ問題があった。HW の国内短期インターンシップ期間は3か月に決められて、NEC 最初に提供されたインターンシップの仕事期間は1か月半だけだった。このままだと単位は取れないので、仕事期間は2か月に延ばしてもらえますかと私が NEC の方々に聞いた。仕事期間が2か月があると準備期間と合わせて3か月になるから、何とか融通してもらいたい。結果として、NEC 社がインターンシップの期間を2か月までに伸ばしてもらったから、本当にありがたい。だから、自分に何か相談したいものがあったら積極的に企業側とコミュニケーションをとると意外にいい結果があると感じた。

受け入れられた後はリモートワークのインターンシップである。NEC 本地に行けないのは残念だったが、リモートワークのインターンシップでも新鮮な体験でした。仕事を始めるために NEC からまずはノートパソコンを私の家まで送ってくれた。仕事の秘密保持関係で、仕事は全部このパソコンで VPN で会社の内部バーチャルマシンをする必要がある。仕事の流れとしては、まず毎日の朝に上司に前日の仕事内容を報告し、さらに指示をもらう形になる。仕事は全部もリモートワークだか

ヒューマンウェアインターンシップ報告書

4 / 4

インターンシップ体験記 (続き)

ら、自分に何か問題があるときに Team というアプリで聞くことができる。しかしこれ全部も文字のコミュニケーションで、うまく伝えない時があって、相手がすぐに返信できない場合もある

リモートワークについいいところと悪いところもある。まずはいいところを紹介する：(1) 通勤の時間は要らないから、休憩はずいぶん取れる。私の勤務時間は朝の8時半から午後の5時半までである。通勤がいらないので、朝に8時に起きても余裕に勤務に間に合える。(2) 自分のペースで自由に働ける。仕事は全部も家にやるから、ほかのことに邪魔されずにやれる。(3) 自宅勤務の援助がもらえる。ほかの会社はどうだかわからないが、NECだと自宅勤務に対して、数が少ないが補助金を支援してくれる。しかし、以上のメリットに対して、デメリットもいくつかを感じた：(1) 会社とのやり取りは面倒だった。最初に提出する身分証明書の書類以外にも、色々書類を提出する必要がある。この書類は全部も郵便で提出しないといけない。(2) 何か問題があるときにその場に聞くことはできない。アプリに聞くことはできるが、うまく伝えない時があって、すぐに返信がもらえない場合もある。よくも実は一言で解決できる問題だが、それを解決するに時間がかかってしまう。(3) 現地に会社の雰囲気を感じることはできない。前の二つのデメリットは何とかなるが、これはどうしようもない。インターンシップとしてはやはり現地に行きたいでしょう。以上の話をまとめると、リモートワークはメリットとデメリットもあるが、インターンシップとしては現地に行く方は私が勤める。経験がある社員としてリモートワークはいろいろ便利でしょうけど、インターンシップの研修生として何もわからないので、リモートワークだと逆に色々手間がかかる。

インターンシップに専門知識以外にも、研究の進め方について勉強できた。今回のインターンシップの研究課題が深層学習の並列化で、まずは専門知識としていい勉強になった。それ以外に、私が毎日に仕事の内容を報告にまとめて報告した後に、上司やほかの社員からとても有意義なアドバイスをもらった。その中に、実験の結果はどうしてそのようになったのか、どうすればよりいい結果になるのか、今の結果では今後の研究にどう影響があるか、このように自分の研究にもっと論理的考える必要があると分かった。

インターンシップが終わったらリモートで色んな手続きをやった。仕事の内容を報告にまとめるとか、会社のパソコンを郵便で返すとか。これは特殊なものがなく会社の要求を従えばいいでした。

コロナのせいで少し残念だったリモートワークのインターンシップでしたが、自分はこれもかなり有意義なインターンシップだと感じた。この経験は必ず私のドクターの研究生活にも活かせるでしょう。